

進路が一気に広がるって本当!? 留学で何を学べるのか

YOUは何しに海外へ?

留学という選択肢が当たり前の時代がやってきました。しかし、いつ、どれくらい行けばいいかについては悩むもの。そこで今回は進路選択の参考に、さまざまな年齢・期間に海を渡った3ケースを紹介します。

CASE 1

中島さやかさん

ユニセフで働きたい。 3回の短期留学で夢を見つけた

桐光学園高等学校3年生の中島さやかさんが、初めて留学したのは高校1年生のとき。外国を見てみたいという思いから、夏休みにオーストラリアに3週間滞在し、ホームステイをしながら地元の高校に通った。

そのとき、小学校にも赴き日本の折り紙を教えたところ、大喜びしてもらえた経験から「自分でも外国の人たちの役に立てることがあるんだ」と知り、嬉しかったという。

そこで翌年の夏休みには、南アフリカで国際ボランティアを行うことを思い立つ。「以前から国際ボランティアをしてみたいという思いがありました。オーストラリアで南アフリカ出身の友人ができたことも大きかったです」(さやかさん)



友人から聞いたのは、ヨハネスブルクという大都市の中に「タウンシップ」と呼ばれる旧黒人居住区があり、そこではアパルトヘイト(人種隔離政策)時代からの貧困のサイクルが今も続いているということ。「なぜ、そんな貧富の差がいまだに残っているのか、自分の目で見てみたいと思った」と語る。

「報道をうのみにせず 自分で見て考えてほしい」

しかし当初、両親は大反対だった。「急になぜ、南アフリカなんだというのもありましたが、留学費用を親に出してもらうなど、自分の世話もできない人間が、他人を助けることなどできない」と思いました」と父・裕幸さんは言う。

かさんは言う。

タウンシップの人々は確かに物質的には豊かではなかったが、いつも音楽がどこからか流れていて、誰もが笑顔だった。ケアセンターのトタン屋根が雨漏りしたときも、ショックを受けるさやかさんをよそに、子供たちは大喜びで口を開けて、水滴が落ちてくるのを待っていた。

「まずはこの魅力から知ってもらったほうが、根深い貧困問題についても考えてもらえるのではないかと考えなおしました」

帰国後、トビタテを通じてできた友人と、その子が通う高校の文化祭で留学についての講演を行うなど、積極的に活動。皆が受験勉強に追われる3年生の夏休みも、さやかさんは「AIG 高校生外交官渡米プログラム」に参加して、アメリカで日本の移民・難民政策についてプレゼンテーションを行ったり、公的機関を訪問するなどして過ごした。

こうして3度の留学を経て、さやかさんが抱いた夢は「ユニセフで働きたい」ということ。留学経験をもとにAO入試を受けて、今年春から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの総合政策学部で学ぶことが決まっている。「留学は行って終わりではなく、学んだことをどう生かすかが大事。その点をはかばかしていると思います」と今では裕幸さんも認めている。

裕幸さんはさやかさんと話し合い、本人の思いが強いことがわかると「お金は自分で用意すること」を条件に許可を出した。

「子供のときから、ニュースの背景には、語られないさまざまな人の思いがあるから、一つの情報をうのみにしてはいけない」と言って聞かせてきました。だから、南アフリカで現地の人たちの暮らしを見てみたいという思いは理解できたんです」(裕幸さん)

国際ボランティアへの参加費用の約60万円を自分で工面しなくてはならなかったさやかさんは、文部科学省の官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN」日本代表プログラム(以下、トビタテ)に応募した。トビタテでは学業に関する留学だけでなく、ボランティアやインターシップ、フィールドワークなど、自分で考えたさまざまな留学プランに対し奨学金(40万円・渡航先・期間により異なる)を出してくれる。

文科省でトビタテを担当する鈴木さやかさんは説明する。

「審査するのは、熱意と好奇心、そしてその子なりの物語(独自性)があるか。学力や英語力は考慮されません」中島さやかさんは見事、合格。父を説得した熱意はトビタテにも伝わり、高校2年生の夏休みに東京から空路で24時間ほどかかる南アフリカへと飛んだ。

留学して学んだことを 帰国後、積極的に発信

さやかさんはケープタウンにあるタウンシップで約10カ国から集まった26人のボランティア高校生たちとともに、ケアセンター(保育園)の子供たちの世話を手伝った。そこで、これまで自分がいかに一方的に物事を判断してきた

さやかさんの 進路と留学体験



費用の目安

南アフリカでの国際ボランティアでは60万円。そのうち40万円をトビタテの奨学金から捻出。

(右ページ) 40周年記念事業の一環で全面人工芝化された桐光学園サッカー場で、「トビタテ!留学JAPAN」のポーズ。(上) 高校2年生で行った南アフリカのケープタウンのタウンシップで。(下右) ケアセンターで絵本の読み聞かせをしたり、アルファベットを教えたりした。(下左) 高校3年生の夏休みにはアメリカに渡り、高校生外交官として国防総省、国会議事堂、国連などを視察。ユニセフなどの国際機関で働きたいという思いを強くした。

